

社会で活躍する卒業生

A graduate of Shimane University

No. 12

地質調査・建設コンサルティング

卒業後も様々な分野で活躍する島大OB・OG。その中から、山陰をフィールドに活躍する注目的人を紹介するシリーズ企画です。今回は、出雲市にある株式会社ワールド測量設計に勤務する吉原さんに、現在の仕事内容やそこに至るまでの道のり、今後の展望についてうかがいました。

インフラ整備における地質の調査や分析を通じて地域の価値創造に貢献

1972年に設立された「株式会社ワールド測量設計」は、島根県内を営業エリアとする建設コンサルタント会社です。道路の設計や橋梁等の構造設計、農村地域の圃場整備に関する業務、水道関連の業務、これらに係る地質調査業務など、インフラ整備における幅広い測量・調査・設計業務を行っています。同社の技術3部調査課に所属するのが吉原さんです。

吉原さんが主に担当しているのは、道路や橋梁を建設することを目的とした地質調査業務で、実際の施工に入る前の地質の現地調査を行います。基本的な方法は、まず地面を歩いて、地面や表に現れている地層の断面、植生、傾斜等を総合的に観察。次に直径10cmの円柱状に地面を掘削し、ボーリングコアとよばれるサンプルを採取して、地中の様子を調査します。目的にもよりますが、ダムや大型の構造物であれば100m近く掘ることもあるそうです。それ以外にも、電気を



Profile
吉原 潤平 さん
 株式会社ワールド測量設計
 技術3部 調査課
 鳥取県倉吉市出身。2014年3月に総合理工学部地球資源環境学科(現:地球科学科)卒業。インターシップで同社の業務内容に触れ、自分の興味と一致し入社を決意。現在は技術3部調査課に所属し、地質等の調査業務を担当。

流して反応を観察したり、地震波等を使った探査もあります。このような現場調査から社内での調査結果のデータ化、それを元にした様々な設計を行います。「地質調査の仕事は一般の方から見れば、分かりづらいことが多く、簡単に興味を持っていただくのは難しいと思います。だからこそ国や自治体を中心とした顧客に、分かりやすく、理解していただけるよう工夫して

います」と専門性の高い業務ならではの心配りを行っています。
大学での専門的な学びが業務での基盤となり成長も加速させてくれる

島根大学在学中は、地球資源環境学科自然災害工学コースに在籍し、自然災害、地すべりについて学び、卒業研究では、島根県内の地すべり防止区域(地すべりが起こりやすい区域)で、どのような対策がなされているかをデータベース化していた吉原さん。学生時代には、週

特徴や気を付ける点についてアドバイスをもらっています。同じ学科でも専攻した内容はそれぞれ異なり、違った視点から物事をとらえられるので、新たな発見や気づきにつながります」。島根大学の卒業生が数多く在籍することで、業務に関する知識の共有がスムーズに図られているほか、学生当時の実習の話などで盛り上がり円滑なコミュニケーションが取れるそうです。

より大きな視点から仕事に取り組むため 日常の努力を継続する

東西に長い島根県は地質的に多様で非常に興味深く、もう少し勉強したいと思えば県内での就職を考えていた吉原さん。大学での学び、自分の興味がある分野で仕事をしたいと考え、インターシップを利用していくつかの企業を訪問しました。「現在の職場を訪問した際、業務の内容、社風や社員さんの雰囲気が良いのが印象的でした。インターシップ後も短期アルバイト等で声をかけていただき、業務に携わるうちに自分の学んでいる内容が建設・設計コンサルタント業界で活



「地質を見ていると細部に意識がいきがちですが、常に最終的なゴールを見据えることを心がけています」と広い視野で業務に取り組む吉原さん。

用できるといふことを知り、自分の働きたい将来像と重なりました」。様々な経験を積みながら日々の業務に取り組み吉原さん。今後はより大きな視点から業務に取り組むことを目標にしています。「直近の目標は技術士の資格をとることです。この資格によって管理技術者になることができるので、業務全体を管理する職に就けます。全体を見て自分の想いや考え、やり方を決定して業務を進めることができそうです。もちろん、試験に向けた勉強もしますが、自分の場合は日々の業務が資格試験と直結するような内容なので、仕事をきちんとすることがスキルの獲得につながると思っています」。自分の学びと興味を活かして活躍の幅を広げていく吉原さんに今後の期待がかかります。

普段のニュースでは知らないことも知ることができ、島大にますます興味が湧きました。
 (島根県松江市・10代女性)

コロナ禍の地域のため産官学が協力して元氣な社会を作ってほしい。
 (島根県松江市・30代男性)

私たちが在学中よりはるかに進歩し、世界的に交流・学問の発展が期待され、目を見張りました。
 (島根県江津市・女性)

写真や図に関して、もう少しインパクトがあって見やすくなるようにしたら良い気がする。
 (島根県出雲市・70代男性)

読者の声 Voice
 広報しまだい vol.48に寄せられた声をお届けします。



ボーリングコアを観察する吉原さん。採取したものをハンマーでたたいて状況を確認します。

1回の野外実習で、様々な地域の地質や地層を学びました。この大学での学びが、現在の業務に基礎的な部分で直結しているといいま

「地質調査に関する知識、特に地質の判別や特徴は大学で学んだことが役立つています。調査に用いる器具等も同様なので、入学時に実習用で購入したハンマーを今も使っています」。また吉原さんの所属する調査課には5名の島根大学の卒業生がおり、なかでも3名は同じ学科の卒業生です。「一人は先輩なのですが、島根県内の様々な地域の地質を見てきているので、